2023 年 10 月 14 日役員会「楽団の収支改善について」シニアマネージャー説明概要

・音楽祭の謝礼大幅減などのため、楽団の収支が思わしくない状況がここ数年続いている。
・このことを受け、楽団の収支改善について検討することにしたところである。
・今日は、時間の都合で説明のみとし、質疑や議論については次回の役員会で行いたい。
・まず、楽団の収支状況は資料の１のとおりなので確認いただきたい。
・次に、２である。
・（１）の楽団の収支改善に必要なお金だが、運営経費と定期の赤字補填、加えて練習会場が新しい施設に移転することに伴う施設使用料増額への対応などで、過去の状況から見るとだいたい年に５０万円から６０万円程度になると思われる。
・それから（２）であるが、収支改善策としては、これまでに資料に記載したような意見が出ている。
・今日はこのうち、①から③についてお話しする。④の議論は別途行う。
・次に、３である。
・後援会のある団体は全国にいくつもあるようだが、まず、北名古屋シティ管弦楽団にはアシスタントインスペクターの山内さんを通じて聞き取りを行った。
・お金の管理や会報の作成が手間になっているとのことだった。
・また、新規加入は低調で、会のあり方を考える時期に来ているのではないかという担当者の意見である。
・それからこの組織とは別に、規約上、賛助会員を設けているが、会員は存在していないとのことである。
・後援会が収支改善の主たる方策となり得るかどうかについて、参考になる事例である。
・次に、福山シンフォニーオーケストラについては、地元企業を中心に自分達の街のオーケストラを支えようという気運の高まりがあり、後援会が結成されたとのことである。
・聞き取りはしていないが、後援会の事務局を地元企業が担っているようである。
・最後に、ＪＡＯ運営協議会での調査結果については、特記事項があれば、後ほどインスペクターから報告いただきたい。

＜インスペクターから、JAO 加盟団体はほとんど後援会を持っているが、昔から存在しており、それを引き継いでいるケースがほとんどで、維持運営していくのが大変そうである旨、報告があった。＞

・本楽団で後援会を設置するのであれば、倉敷でも地元企業を中心に支援の気運が盛り上がるかどうか、そして、本楽団で後援会にリソースを割いていけるかどうか、ということが重要だと考える。
・次に、４である。
・（１）であるが、支援の広がりが期待できるのかどうか、それから、後援会の支援だけで収支不足をカバーしていけるのかどうか、といったことについて議論いただきたい。
・その下の囲みだが、次回、役員会としての態度を決めてもらいたいと考えている。その際の選択肢をそこに書いている。
・そこの①で「体制を整えて」としているのは、今の役員は通常業務で手一杯で、後援会の検討などへの対応が困難であるため、執行体制を整備してという条件を付けるものである。
・囲みの意味は、以下同じである。
・（２）であるが、毎年コンスタントに数件の依頼演奏のオファーが見込まれるのかどうか、ということかと思う。
・それから、依頼演奏１件の謝礼をいくらにするかだが、仮に５０万円で設定して利益をその半分の２５万円と考えると、収支不足分を稼ごうと思うと、毎年２～３回程度の依頼演奏が必要となる。
・来年は、ＴＣＣと郷土文化財団の演奏会があるようだが（※郷土文化財団演奏会は１２月実施のため、２０２５年度事業）、こうした依頼が毎年継続的にあるのかどうか、また、謝礼の金額をいくらにするかは相手方のあることなので、本楽団の都合だけで価格設定ができるのかどうかなど、協賛金の取組も含め、諸々、皆さんで議論いただきたい。
・（３）であるが、例えば仕事を通じて培った人脈を自分のプライベートな活動で使う、ということについては議論があろうかと思う。特に公務員などはそのあたりの倫理観を強く求められるが、ほかの業種でも同じようなことがあるのではないかと思われる。
・そういった状況で、楽団として後援会を設立したり協賛金の取組を強化するとしても、団員に後援会加入や協賛金のノルマを課して成果を上げることを強制することまではできないのではないかと考えている。これも次回、皆さんに確認いただきたい。
・次に、５である。
・（１）も（２）も、現状を継続、という判断かと思う。
・（３）である。
・当たり前の話だが、演奏会の赤字が減れば楽団全体の赤字も減る。

・倉管で赤字になる演奏会は主に定期演奏会なので、引き続き慎重な事業計画の立案が必要と考える。
・次に、６である。
・（１）だが、先ほども述べたように、こういったことを本気で進めていくのであれば、今の役員はそれぞれの業務で手一杯なので、北名古屋シティ管弦楽団のように専任の役員などを設置すべきと考える。
・今の役員で担当したいという方がいたらお任せするが、なければ楽団内から人材を募って知見とやる気を持った人に担当してもらえたらと思う。なお、役員は総会で承認を得る必要があるため、まずは役員を補佐する者、この場合は大きな案件なので団長を補佐する者としてスタートさせてもよいと思う。
・募集する場合の団員向けの文案を資料の３ページ以降に掲載しているので、後程ご覧いただきたい。
・（２）だが、後援会などの業務について、担当してくれる人の有無でどの手法で収支改善に取り組んでいくのかが見えてくると思う。
・手を上げてくれる団員がいなければ、収支改善策として団員会費の導入を検討せざるを得ないと思うが、楽団の会計が今日明日にどうこうなるという状況ではないと承知しており、余裕のあるうちに少し時間をかけて団員会費の制度の構築を図っておくのが賢いのかなと考えている。
・いずれにしてもどの手法にリソースを集中させるかについては、担当者募集の結果を待ってからの協議でどうかと考えている。
・私からの説明は以上である。